

小学校にて

井草晴美

昨年10月から甲府市立の小学校へ週一回通っています。

中国籍の4年生の男の子二人と日本語を勉強するためです。

マンツーマンで、45分間、先生が用意してくださった国語、社会、理科のプリント問題を少しずつやっています。

一番やんちゃな年頃です、言うこと聞かないのなんの、おとなしくプリント問題に取り組んでくれません。ただ反抗的で心を開いてくれないというのではありません。

特にK君は漫画のドラゴンボールの話などが大好きで、まだまだ拙い日本語で一生懸命に伝えてくれようとしています。業を煮やすと絵を使っての説明が始まりますが、コミュニケーションを諦めようとしないその姿勢を大切にしたいので根気よく付き合っています。

また今日は、「社会のプリント問題をやります」と言うと、途端に顔が曇り、完全に学習意欲喪失モードに。そこで、問題文の中に“電気器具”という言葉が出てきたので、問題内容からは脱線するのですが、

「どんなものがあるか順番に言い合い、たくさん言えた方が勝ちのゲームをしよう」と言うと、俄然張り切りテレビ、パソコン、電話はスムーズに出てきました。その後は職員室内を見回し（職員室の一角で勉強しています）冷蔵庫や電子レンジ、電気ポット、コピー機などを指さし、その都度その言葉を教えていきました。K君が勝ったのは言うまでもありません。「次は、食べ物でやろう！」と目を輝かせるK君。キリがなくなると悩む私。

そんなこんなでプリント学習はなかなか進みません。

彼らにとって日本語習得は必須で、これからの生活の質を左右する重要な問題です。とても深刻な問題だと感じます。しかし私の力不足で、学習意欲を引き出すまではいかず、どれだけの支援が出来ているかわかりません。それでも勉強初日に「先生、給食どこで食べるの？ 僕たちの教室で食べてもいいよ。」と言ってくれた二人の優しい心が、これからもまっすぐに伸びていけるようにと願わずにはられません。

まさに試行錯誤、暗中模索、時々悪戦苦闘の支援活動中です。